

Smart Times

6月2日、クオインタムリープ会長の出井伸之さんが亡くなった。亡くなる直前まで次世代ビジネスのインキュベーションに奔走し、生涯現役を貫いた経営者だ。出井さんはソニーの社

長時代に業績の低迷で批判されたこともあったが、ゲーム・映画・音楽などのエンターテインメント領域へ事業を広げ、高収益を上げる礎を築いたと高い再評価を得た。
出井さんとお会いしたと

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート（現リクルートホールディングス）入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立、社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

き、よく話していたのは社業をやらせるべきだ」と。内起業のことだ。「あなた 出井さんは31歳の若さでソと同じように僕もサラリーマンこそ社内起業に挑戦すべきだとずっと言っていたいえに至ったのだと思う。会社の中での挑戦なら

業家と共に仕事をする有能な人材の流動性や産学連携の集合知性、弁護士、会計士、ヘッドハンター、メディアなどのエコシステムがあるからだ。一方、日本はスタートアップへの投資額は増えているものの、起業率は4・2%と先進国の中では最も低い。昨年、ソニーが初めて1に、社内起業によって新産業が勃興し、経済が高度成長を遂げ「ジャ

サラリーマン起業への挑戦

社内ではバックアップしてくるし、大きな損失を出し失敗しても会社が盾となつて守ってくれる」

「自己破産して路頭に迷った。新型コロナの感染が広がった2020年以降、た挑戦ができる。スタートアップがない様々な恩恵を受けローリスクで起業できるのだから日本の企業はもつとサラリーマンに社内起

富な資金だけではなく、起